

いなべ市



- ① 刻限日影石
- ② まんぼ(間風)
- ③ 篠立の風穴
- ④ ネコギギ(ナマズ目ギギ科)
…希少種により非公開



文化財

いなべ市

こくげん ひ かげいし
刻限日影石

笠田大溜はもとは野摩池と呼ばれ、古くから近在の水田の溜池として、利用されてきました。1601(慶長6)年桑名城主となった本多忠勝の命によって改修が行われ笠田池となり、さらに、1635(寛永12)年桑名藩主となった松平定綱の命によって堤防が築かれ、笠田大溜と呼ばれるようになりました。その後も、たびたび修理や改良がされて、今のような形になりました。こうして長い間、苦勞し、費用を費やしてきた笠田大溜は、笠田、宇野、大泉新田などの水田を潤すことになりました。

しかし、新田開発が進んで水田が増え続け、日照りが続くと、大溜の底が見えるほどの水不足になってしまいました。そのため、笠田新田と隣の大泉新田の両新田の間では、水利権をめぐる長い間争いが絶えませんでした。そこで1847(弘化4)年、大泉村庄屋、懸野松右衛門という農夫の工夫で「刻限日影石」が建てられました。刻限日影石とは、日時計になっていて、日の出と、午後5時の時刻をはかり、昼間は大泉新田、夜は笠田新田が用水を利用することになっています。こうして笠田新田と大泉新田に、公平に水が供給されるようになり、争いはようやく治まりました。刻限日影石は、1967(昭和42)年県指定の有形民俗文化財に指定されています。【→P9,12,78】



刻限日影石(いなべ市教育委員会提供)

■ あなたの地域では、貴重な水を大切に使うために、どんな約束や工夫があったか調べてみましょう。

歴史

いなべ市

まんぼまんぼ (間風)

まんぼは、水不足を解消するため、地下2～10mを素堀すぼりでトンネル式に横穴を掘り、地下水を集めて農業用水にしたものです。鈴鹿山麓さんろく一帯に約300あるといわれており、そのうち、いなべ市大安町には100あまりが確認されていて、現在も多くの水田を潤うるしています。世界中を見ると、横井戸で地下水を利用するものは、イランやイラクに「カナート」と呼ばれるものがあります。

まんぼの工事の記録の中で古いものは、大安町の「片樋かたひのまんぼ」があり、工事を始めたのは1770～1771年(明和の末期)といわれています。「どこへ、どんな形になろうとも絶対文句は言わない」と全員の確約を取って、庄屋、農民が一体となって工事が進められました。慣れない工事で事故も多く、初めにできた時には、水は少ししか流れず、水田を潤すにはほど遠いものでした。その後、庄屋も私財をなげうって難工事を進め、やっと念願の水が流れ始めたのは、1775(安永4)年7月のことでした。

その偉業をたたえ、水利の安全を祈願するため大安町片樋地区では、毎年7月1日に「まんぼ祭り」を行っています。また、まんぼ祭りは、北勢町中山でも行われています。



片樋のまんぼ (いなべ市教育委員会提供)

- まんぼの作り方や、まんぼのそじの仕方、まんぼの分布を調べてみましょう。

自然

いなべ市

しのだち かざあな
篠立の風穴

藤原町の篠立地区に「篠立の風穴」という洞穴どうけつがあります。この洞穴は、石灰岩でできた地層が水と二酸化炭素によって侵食しんしょくされてできた鍾乳洞しょうにゅうどうです。この地方としては大きな洞穴で、昔は入り口付近を養蚕ようさんに利用したこともありました。

総延長は約280mで、洞穴には石筍や石柱などの鍾乳石が見られます。また、洞穴内で冬眠や出産をするキクガシラコウモリや、洞穴性の希少生物きせうせいぶつであるイセカマドウマやウエノホラケヤステが外界から閉ざされた静寂な環境の中で生息しています。

この洞穴で発見され、命名された生物は、イチハシヤステ・スズカホラヒメグモなどがあります。昆虫だけでも40種類近く生息しています。篠立の風穴は、1977(昭和52)年3月28日に県の天然記念物に指定されました。

この洞穴は、地質学的にも生物学的にも非常に貴重なもので、地域の文化財を自然の状態で後世に残すために、人為的な環境の変化を極力さけています。【→P8,12,78】



篠立の風穴 (いなべ市教育委員会提供)

- 洞穴に生きている生物について調べてみましょう。



ネコギギ (ナマズ目ギギ科)

ネコギギは、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川にのみ分布する日本固有の純淡水魚です。1977(昭和52)年に国の天然記念物に指定され、清流の象徴(シンボル)といわれています。

体長は10cm前後で、口に4対のひげを持ち、背びれと胸びれにとげがあり、体色は黄褐色から暗褐色です。夜行性で、昼間は川岸や河床の岩、巨れきの下にできる隙間、水際に生えた植物などの根の間などに隠れています。夜間は、流れの緩やかな平瀬や淵などに泳ぎだして、餌となる水生昆虫などを探します。

いなべ市の中央を流れる員弁川とその支流は、魚類相の豊富な水系として知られており、過去には多くのネコギギが生息していました。しかし、1995(平成7)年以降に実施された生息状況調査では、2001(平成13)年までに同水系の一河川で数個体が確認されただけで、危機的な状況になっていることが分かりました。そこで、2003(平成15)年度と2005(平成17)年度に、緊急的措置として、三重県教育委員会が文化庁の補助を受け、「員弁川水系ネコギギ保護増殖事業」を開始しました。2006(平成18)年度からは、いなべ市がこれを引き継ぎ、ネコギギの個体数を増加させ、河川への放流により、野生個体群を復活させることを目的として文化庁の補助を受け、地元に着した事業を展開しています。



ネコギギの親子(志摩マリンランド提供)

- 近くの川や用水路などに住んでいる生き物を調べてみましょう。

COLUMN コラム

条例で守られている魚たち ～カワバタモロコ・ウシモツゴ～

川や湖沼、池、水田の水路には多くの魚が生活しています。一生を淡水域で生活する種だけではなく、サケのように川で産まれて海にくだって成長し、再び繁殖のために川をさかのぼる種類もあり、その生態は様々です。これらの魚は淡水魚や川魚とよばれ、水流の強さ、水深、水温、水質などによって、生息する種類が異なります。

カワバタモロコやウシモツゴは、ため池や農業用水路の緩やかな流れの場所を好みます。最近では土砂の堆積による生息環境の悪化に加え、人による乱獲やブラックバスなどの外来種による捕食により、三重県内で確認できる場所はほとんどありません。全国的にも危機的な状況にありますが、保護措置がとられている例は多くありません。三重県では、両種を特に保護する必要がある種であると考え、三重県自然環境保全条例に基づいて、『三重県指定希少野生動植物種』として指定して、捕獲や採取などを制限しています。



カワバタモロコ(鳥羽水族館提供)



ウシモツゴ(鳥羽水族館提供)